

富永
春部
纂述

諸國郡鄉考

畿内中

二

特31

418

727

三八三

大日本教育會館			
室		第	
	一		三
	二		
三冊	三號	五架	一函

特31
418

東京府立
中央図書館
蔵書印



諸國郡考卷二

明治九年圖書寮交付

越後

富永春部纂述

男 準 清 校

紀伊郡

岡田乎加多

三代實錄貞觀七年九月相樂郡岡田郷○
又云元慶五年六月勅停廢探山城國岡田

銅使其屋舍什器付國令守護○賀茂皇大神
官記山しるの岡田の賀茂遷座したまふ

大里オホサ

加納
諸平

云東大寺奴婢籍帳山城國紀伊郡邑薩戸主輕
部午甘戸主又山城國紀伊郡邑薩戸主茨田連族小里

下戸口トアル邑薩ハオホサトトヨミヲユノ大里ナ
リ邑ハ加賀郷名於保知トアリ薩ハサツノ音ナリサ

トニカリタル也又山城國紀伊郡大里郷戸主茨田連
族智麻呂又大里郷○今按大里ハ小里ト云地ニ對ヘ

る名ふるん歟東大紀伊未詳○名勝志紀伊寺深草
寺奴婢藉よ考へし近隣七箇寺之一也とあり

其あり
考ふるし鳥羽度波節用集トバと濁るるをわろし○
山陵志深草西爲京之南郊曰鳥羽

○名勝志鳥羽殿城南寺森邊云々森南有呼御所内田
地○又云東限竹田南限横大路西限桂川未北限四塚

此間有二村隔小枝橋北云上鳥羽南云下鳥羽○石清
水御幸記文應元年八月九日新院有臨幸石清水云々

鳥羽北川外池尻井鴨川尻亘浮橋鳥羽殿役也○續世繼鳥
羽殿ハこの法皇のつくらせ給へればさやうにや申

さむと思ひりしかども白河にはかたく御所とも待
りまらば白河院とそ伝ふ見まらざ侍マ々る○百

練鈔寛治元年二月上皇選御鳥羽離宮營作甫就之故
也件地本是備前守季綱朝臣領也去年進上之讚岐守

泰仲造進屋舎○扶桑略記公家近來九條以南鳥羽山
庄新建後院凡ト百餘町焉近習卿相侍臣地下雜人等

各賜家地營造屋舎宛如都選讚岐守高階泰仲依作御
所已蒙重任宣旨備前守藤原季綱同以重任獻山庄賞

也云々池廣南北八町東西六町水深八尺有餘殆近九
重之淵或摸於蒼海作島或寫蓬山疊巖泛船飛帆烟浪

渺々飄棹下碇池水湛々風流之美不可勝計○榮花物
語九條乃あふる鳥羽といふ所ふ池山廣うおをし

らう作らざ給はかりさせ給ふへき御心まうけよや
云々らの鳥羽院よおはしほさを給十餘町をとめて

流くらと給ふ十町賜ありハ池よてはるばるとよもの
 海なるしきよて御舟うらむとしふるいとめてる
 し○神皇正統記城南は鳥羽と云所ハ離宮を立土木
 の大なるいとみ有き昔ハかりる能君を朱雀院よ
 またま次是を後院といふ又冷泉院よもおハとる
 よらの所々にハ次ませ給ハ白河より後ふハ鳥羽
 殿をもちて上皇御座本所と定めらまにハ増
 鏡後深草鳥羽殿もちハ比ハいたうあまて池ハ水草
 ありみうきまありてはるばるとしうとてハみら
 ぞ給ひて賜しめハ御幸ありし時池邊通松といふこ
 とありとらましハおハとらましハ序あり給ハてき夫
 鳥羽仙洞三五累聖離宮一百餘載とらや○今昔物語
 鳥羽村○吉野詣記天文廿二年二月廿三日乃あま
 むそらみ都を出侍る鳥羽とては乃とほきまら

平十四年八月車駕幸石原宮○三代實錄貞觀十三年
 閏八月制定百姓葬送放牧之地其一處在山城國葛野
 郡五條荒木西里久受原里一處在紀伊郡十條下石原
 西外里十一條下佐比里勅曰件等河原是百姓葬送并
 放牧之地也而愚昧之輩不知其意競好占管專失人便
 須令國吏屢加巡檢勿令耕管犯則有法焉○又云山城

上鳥羽と下鳥羽之石原イシハラ名勝志今吉祥院村南鳥羽北
 間是ヲ作り道ト云有石原村桂川東也○續紀天

元年以降百姓不能漁獵重加禁○小馬命婦集い
 國野自故治部卿賀陽親王石原家以南至赤江崎承和

らよそをよと久しくまこと之終ハとて(以)来ノ志と
を急こそわあまい志ハ中よあふまきと出るおん

正濫抄らたうみ書て他國よあやしとよ見
既志林ふた五音通ハ志とばい志もあやし

り○玄番式凡近都諸寺東拜志以北
西石作以北停預講師僧綱檢察

栗栖南伏見西竹田北稻荷日此間○欽明紀元年山背國
紀伊郡深草里○後紀延曆十一年八月禁葬埋山城國

深草山西面縁近京城○三代實錄貞觀四年十月大伴
宿禰善男奏言請捨山城國紀伊郡深草鄉別墅爲道場

許之○諸陵式深草山陵平安宮御宇仁明天皇在山城
國紀伊郡北城東西一町五段南七段北二町守戸五烟

○續後紀嘉祥三年三月己亥帝崩於清涼殿癸卯奉葬
天皇山城國紀伊郡深草山陵遺製薄葬○三代實錄貞

觀八年十二月勅改定深草山陵四至東至大墓南至純
子内親王家北垣西至貞觀寺東垣北至谷

原朝臣眞子薨勅贈從一位葬深草山陵兆域之内○諸
陵式後深草陵中宮藤原氏在山城國紀伊郡深草鄉守

戸三烟東限禪定寺南限大墓西限極樂寺北限佐能谷

○行囊抄深草山左右松山ナリ深草
ノ内凡一里アリ其間ハ小坂路ナリ

九郷内自御香宮迄西道手筋號石井村御香宮坐伏見
山西舊御香宮在大龜谷東矢島嶺秀吉公被遷當社處

也然有故又復舊地今官所是也矢島峠社地今爲御
旅所豐臣秀吉公朝鮮征伐之時自當社有御首途

宇治郡

石井イシキ名勝志土
人云伏見

大國オホシヨ

未詳○穗井田忠友理麿發香引東大寺古文書云
宇治郡印小椽天平寶字五年十一月二日大國郷
百姓家地沽券郡判所捺此券无國判○拾遺集神樂歌
天祿元年大嘗會風俗おふくよのこと(年)もよしとかひ
もえたり大國のこととの賀美カミ未詳○理麿發香引東
大寺古文書云宇治郡

印大椽天平廿年九月廿六日加美郷堤田村百
姓某家地沽券郡判所捺此券國判用山背國印
岡屋乎

加乃也 名勝志木幡西宇治川東有岡屋村或云古近衛
關白兼經公居之故號岡屋關白此地累世近衛

殿御領○類聚國史延曆十二年二月遊獵岡屋野○善
隣國寶記引日本古記云建治元年正月十八日蒙古人

二人高麗人一人明州人一人自鎮西送之皆不入洛中自
山崎經岡屋醍醐赴關東○名勝志昔自山崎經巨掠岡

屋醍醐通關東歟今岡屋非海道○方丈記岡の屋は行
かふ舟をとては沙彌か風情を忍む○山家集(伏見
そき忍岡の屋は猶とゝまゝて日野まで行て駒心と
ん○夫木集(日くれなゝ岡の屋はとそふしとみれあけ
てわあらん櫃川の橋あらと○慈惠大僧正御遺告岡
屋左一處田地百三十餘可載在券文右丘本故九條殿
御領薨逝給後依御遺言被寄法華堂也○行囊抄此村
ヨリ右ノ方小幡ノ渡ヲ渡リ八幡ニ到ル路アリ宇治
川ノ餘戸 名勝志按今四宮村東有余古木村是餘戸郷
遺名乎安祥寺境内古文書云山城國宇治郡
餘戸郷石雲里○信濃地名考山城國宇治郡餘戸廢れ
て與古木村存ぞ今近江國滋賀郡屬ぞ○行囊抄横
本是ヨリ左ノ衢ニ入テ三井寺邊へモ出又京内川ノ
邊へモ出ルハ古關越ノ路ナリ○今按出雲風土記よ

依神皇正統記四年編戶天平里故云餘戶他郡且如之云云あるよてふへて諸國あるもさる故よて名におほし、あるへし近勝芳樹云餘戶と與古木と唱ふるハ音ととりて訛れる也といハ阿麻邊と訓へし即出雲風土記といへるハその證也戶令之凡戶以五十戶爲里若山谷阻險地遠人稀之處隨便置置職解之若滿十戶者依上法立別里之れ五十戶之餘れるゆゑ之餘

小野乎乃

名勝志今小野村在醍醐寺北勸修寺東○花鳥餘情山城國之小野里と云所二、有宇治郡之小野有○姓氏銘山城國皇別小野朝臣注孝昭天皇皇子天足彦國押人命之後也○多武峯緣起齋明天皇二年丙辰自守營居山城國宇治郡小野郷山階村陶原家收療○諸國式小野基贈太政大臣正一位藤原朝臣高藤在山城國宇

治郡小

山科也末之奈

名勝志東限逢坂南限醍醐西限

松坂北限山北山科ハ今昔物語

ニ粟田山ニ行テ北山科ニ行ヌト云々南山科ハ南山科ヨリ慈徳寺ノ南大門ノ前ヨリ河原ニ出タリト云々然ハ則北山科ハ粟田口ヨリ行キ南山科ハ清谷ヨリ出ルカ○名所方角抄京東の部ニ粟田口より相坂へ行中の間あり○顯注密勘相坂山ハ山城と近江との境あり關より西キ山階あり○類聚國史天智天皇八年五月天皇縱獵於山科野皇太弟藤原内大臣及群臣皆悉從焉日本紀○後拾遺集石山よまるけける道山科といふ所よて休と待ふるよ家あるし心をばよ見え侍るれハ今歸るよなといひけるをよよさしといひ侍るれば歸るよをもち心見よかくあらよんちよてまやましぬのよ和泉式部○内膳式五月五

日山科園進早瓜一棒○諸陵式山科陵近江大津宮御
 宇天智天皇在山城國宇治郡兆城東西十四町南北十
 四町陵戸六烟○江次第北山科又日岡東御廟野陵側
 有小社鳥居額云天智天皇○水鏡天智天皇十年十二
 月三日御門御馬を奉りて山階へおはして林の中に入
 てうぞ給ひぬいつくよおはひといふことをしらひ
 只御沓に落ありしを陵よきとぬあり帝王編年○三
 代實錄貞觀十四年五月勅遣從五位上守右近衛少將
 藤原朝臣山蔭到山城國宇治郡山科村郊迎勞渤海客
 又元慶七年二月勅正五位下平朝臣正範到山城國宇
 治郡山科野邊郊勞渤海客○神名式山科神社二座○
 行囊抄宇治郡山科村俗ニヤツコ茶屋トイフ山科七
 郷或十八郷ト云テ村々多キ中ニ山科トイ
 フハ是ナリ○今按今も山科郷とよへり
小栗乎久

留須

名勝志今勸修寺南醍醐西有南北二村小栗栖二
 利之間有出深草坂路土人云天正十一年明智光

秀迷勝龍寺城赴坂本城時過此路爲此里人被害故云
 明智越○保元物語平城大子高岳親王嵯峨天皇ニ位

ナ超ヲレテ御恨ノ餘リニ御出家アリテ醍醐山ノ邊小
 栗栖ト云所ニ暫住セ給ヒキ○節用集小栗栖○田邑

麻呂傳記弘仁二年五月二十七日葬於山城國宇治郡
 栗栖村今俗呼爲馬背坂○名所方角抄栗栖野小野池

醍醐の西ありいあり山のひかしふ京よは辰
 の方よよるなるな池ハ勸修寺の池をいへり
宇

治ナ今按久世郡よあ古事記傳一地の二郡よわ
 れる也○神名式宇治神社又宇治彼方神社今宇治

町あとい○續記天平十三年九月行幸宇治及山科○三
 代實錄天安二年八月令山城國司警護宇治與渡山崎

道以東南西三方通路衝要也○詞林采葉引日本紀云
 皇極天皇五年春三月戊寅朔幸吉野宮而肆宴焉庚辰
 幸近江浦焉以之吉野宮ヨリ幸比良宮中途ニノ宇治
 ノ故宮ニ假庵ヲ結ヒ御座ケリト見エタリ万葉一秋
 の野み美草らみぬさやとれまし兎道の都のかま
 しおもほゆ此御製ノ文字遣ヒモ兎道ト書リ日本紀
 令符合山城風土記云兎道者輕島明宮御宇天皇御子
 兎道稚郎子造桐原日祈宮以爲宮室因之御名號兎道
 本名曰許乃國矣彼是宇治都無相違者○万葉集十(千
 早人うちの渡のはやし瀬みあはるあまとも後も
 我流ま呂麻○名勝志宇治川湖水未也廻近江國勢多
 田上櫻谷而落宇治末入淀川也土人云昔宇治川流出
 巨掠故古橋亦在于西○拾芥抄大橋部山崎勢多宇治
 ○明衡往來東望橋小島西願宇治之長橋○續紀文武

天皇四年三月道昭和尙物化河内國丹比郡人俗姓船連孝德天皇
 白雉四年入唐後周遊天下路傍穿井諸津濟處儲船造
 橋乃山背國宇治橋和尚之所創造者也○靈異記高麗
 學生道登者元興寺沙門也出自山背惠滿之家而往大
 化二年營宇治橋扶桑略記同之○行囊抄宇治ノ町橋ノ西南
 ハ久世郡ナレモ町ノ名ヲ宇治ト云自古往如斯宇治
 關白殿宇治大納言ノ舊跡皆平等院ノ地トイヘリ菟
 道稚郎子ノ宮モ今ノ離宮ノ地トイヘリ然レハ郡名
 ハ久世ニシテ里名ハ宇治ナルトイナシルシ○木工
 寮式凡山城國宇治津雜材運賃錢自同津至前瀧津樽
 一材功
 一文半

久世郡

牧勘物云宇治院萱原庄被留後院○花鳥餘情河原左大臣融公此別業宇治郷あり陽成天皇三ハらく此所ふおかしましき宇治院と云所也宇多天皇朱雀院と申も領し給へる所也承平の御門とよて御遊獵ありとるごとと李部王記に見えたり其後六條左大臣雅信公此所領ありしと長徳四年十月の頃御堂關白此院を買取て同五年人々宇治此家に向ひて乗舟此遊ふとありき宇治此關白此代よありて承承七年に寺にふさきと法華三昧を修ざらむ平等院と名付侍り治暦三年に行幸ありと藤氏の長者の知所なり○さらしな日記初瀬宇治の渡につぎ忍からうしと渡り殿乃とふ所のうち殿をいりて見るとにうきゆねの女君のかゝる所にや有らんなどほつ思ひ出らる○行囊抄橋の西南は久世郡など

も町の名を宇治と云自古往如斯宇治關白殿宇治大納言の舊跡皆平等院の地といへり菟道稚郎子の宮も今の離宮の地といへり然れば郡名久エノリ殖栗リ名勝世にしと里名を宇治あることいちらしむ

たふならは○節用集山城殖栗○姓仁栗隈久里久末氏錄左京神別上天神殖栗連中臣氏德

紀二年冬十月堀大溝於山背栗隈縣以潤田是以其百姓每豐年也又推古紀十五年是歲冬山背國堀大溝於

栗隈○名勝志今長池町北ニ長池ノ跡トテ廻ニ堤アリ今ノ町モ古ヘノ池ノ跡ナリト云是昔ノ栗隈ノ大

溝ナルヘン○續紀仁明天皇天長十年十二月行幸芹川野栗隈山遊獵○百鍊抄永久元年四月與福寺大衆

爲遂天台之會稽參洛之間所發向之武士等於栗前山合戰中右記云源平遺宇治坂邊○保元物語僅十七騎栗栖山ニ

馳向今按京師本作栗山同鎌倉本作栗○東鑑承
久三年六月毛利入道駿河前司向淀手上等武州陣于
粟子山○名勝志今從宇治至田原坂路曰粟子山越有
峠土人呼國見峠此處乎○大和物語(栗隈の山に朝た
つ雉よもかにはあはしとおもひしものを六帖
もひわれをあかりありお○河社くくは山は山城久世
郡にあ和名抄栗隈久末とある是ぬ能宣集にく
くと山ある人な家にをうぬとも紅葉見侍(紅葉と
るくくとほやほは夕らけをいさわらやとにうつし
もたらんとと書のくくと山冬まの字落たるにやと
思へと俗にいさいゆにや保元平治物語の歌ふも(あ
ら法師くくと山まてあふく來ていらもののくをい
きととらるく○三代實錄久世郡栗前野○類聚國史
延曆十一年二月遊獵于栗前野十二年九月遊獵于栗

前野○日本紀畧栗隈野○蜻蛉日記初
瀬乃あへさの所くくはのもやけ
富野止無乃今

今東西富野あく○名勝志長池町西有富野村土人云
長池町元自富野村出在家也○東大寺古文書山城國
富野郷内南村於富村之散在者舍兄備前守政清于時
通世號宗信避狀炳焉之上早彼一村同散在田島彌可
被領知文明十八年十一月廿三日
小笠原幡摩守殿元長散位加賀守
拜志名勝志さらはらひ○今按
古圖ふ上久世村の北ふ牛ふ
瀨村下津林といふあく是ら
久世名勝志今久世村在
長池町北大和路○

行囊抄自伏見到于此或富野云○御教書案山城國
采女司領久世村文明十四年十月廿九日文書云華嚴
禪院事附勢州大桑名於院主職者門徒評議可任之也
城州久世村依爲便宜之地寄附之字○萬葉集一(山

しものくせのちりある草を手折すおのか時ちと
かゆとも草を手折りそ八麻又十一玉久世の清き河原
よみそさして斬る命も妹もためあり○藻鹽草玉久
世河原山城○名勝志按是久世河原歟今久世村ト長
池町トノ間ニ有川此邊乎可尋○桃花葉家領并敷
地等之事山城國久世庄爲春日社神供料所辰市權預
代々致奉行者也此中毎年六十人夫役爲家門之得分
○嬉始日記初瀬詣の段よ山城國久世のまやげとい
ふ所よとあり也○今按久世村
の東南よ久世社といふあり
羽栗姓氏錄葉栗注小野朝臣同祖彦國
尊命之後也○今按神名式雙栗神社三座とあるを雙
の畧双字と羽の字の似かよひたるより雙とされり
やともおへと猶いかにあらん○三代實錄貞觀元
年正月奉授正六位上雙栗無位小社神並從五位下

綴喜郡

山本

今按今山本村あり木津川の西あり○名勝志在
飯岡村南○續紀和銅四年正月始置郡亭驛山背
國相樂郡岡田驛綴喜郡山本驛○三代實錄貞觀十二
年七月山城國言綴喜郡山本郷山頽裂陷長二十二丈
廣五丈一尺深八尺底廣四丈八尺相去七丈小山堆起
草木無變動○東大寺奴婢藉帳山背國綴喜郡山本里
戸口錦部田福戸口○拾玉集建久二年右少
辨資實よ山本庄と給ひたるよしを聞て
多河今按板本
傍訓よタカハとあるを誤ふるをし河も音よてよむ
例あり○名勝志今多賀村邊歟○多賀志引和名抄云
多河郷在綴喜郡此所歟今中村市野邊村巽有多賀村
○太平記笠置城没落兎角シテ夜晝三日ニ山城國多

賀郡今按ナル有王山ノ麓マテ落サセ給

田原多八良

名勝志自宇治一坂田原郷口へ二里八

町坂路ナリ從郷口長池へ一里半鷲峯山へ一里半田原郷入口狹ク谷中廣シ今十五村アリ誠隱レ里ト云ツヘシ類少キ奇境也此郷ノ内湯屋村三ノ谷アリ湯屋谷中谷鹽谷ト云鹽谷中ニ古キ蛤貝多シ加様ノ所外國ニモ海邊遠キ所ニアリトカヤ古ヘトラモ海ニテ有ヘキ所ナラヌ開闢以前ヨリモ有レ物ニヤ不審シ宇治ヨリ田原へ越ル路危峻ナリ是ヲ栗子山越ト云一里許行テ峠アリ國見峠ト云東ハ鷲峯山ヲ限リ南ハ伊駒山金剛山西ハ兵庫出崎淡路島近クハ八幡山崎大原野小鹽山淀伏見天神森木津川ナト眼下ニ有リ又久世郡高尾村ト田原郷ノ間ニ嶺アリ明峠ト云○又云凡此道自田原郷禪定寺村有二道北へ出レ

ハ近江國會東村ヲ經テ大石村へ行南出レハ小田原村ヲ經テ大石へ出ルナリ大石ハ文德實錄ニ近江國一關之一也今大石ノ北勢多ノ南ニ關ノ津ト云ハ昔ノ關ノ古路ナリ○續紀天平寶字八年九月大師藤原惠美朝臣押勝逆謀頗泄遂起兵及其夜相招黨與遁自宇治奔據近江山城守日下部子麻呂衛門少尉佐伯伊多智等直取田原道先至近江燒勢多橋○三代實錄元慶六年五月綴喜郡田原野樵夫牧豎之外莫聽放鷹道兔○康富記康正元年十一月隼人司領當國大住庄并宇治田原郷同西京隼人町○盛衰記壽永二年七月資盛大將軍トノ貞能等ヲ相具ノ二千餘騎宇治路ヲ廻テ近江國へ指下サル○宇治拾遺清見原天皇大友皇子ノ亂をさきて吉野山よリ山城ナカムラ中村ナカムラ名勝志長池町東國をいらといふ所におかしよし

世志磨

名勝志今長池西有志磨村此地歟○類聚

綴喜

豆々木

仁德紀三十年秋九月天皇伺皇后不在而娶八田皇女納於宮中時皇后到難波濟聞天皇合八

冬十月遣的臣祖口持臣喚皇后爰口持臣至於筒城宮離調皇后而默之不答時口持臣沾雪雨以經日夜伏于皇后殿前而不避於是口持臣之妹國依媛仕皇后適是時侍皇后之側見其兄沾雨而流涕之歌曰山しろの泣くさのこやよものまうひ我せをくれと涙くまじも

○繼體記五年十月遷都山背筒城○舊事記都遷山背謂筒城宮名勝志士人云今不知其地但與戶村與陀々

也是都舊地歟○萬葉集三十空見津倭國青丹吉寧樂山越而山城之管木之原○古事記高津宮條筒木○古事記傳今

け世よ普賢寺庄として十村ある是古の綴喜郷ありといへりさて此地名綴の字を替るよつきて都豆紀と下の都を濁りてよむハ非ふぞ綴字ハヲツの音を取れるありつゞとといふ訓をとれるよをあくぞ大

住ス名勝志松井村南手ハツ川ノ北ニアリ○今按今心大住郷存れり○東鑑文曆二年五月石清水八幡宮

寺興福寺有確執及喧嘩等云々は薪大住兩庄用水按今

天莊ハ大住村の異相論之故也○康富記文安五年正月自山城國大住華人司領公事物七種菜十二把上三把未進○又云富國大住庄内

華人領大嘗會田中田地一町二反有之大嘗會時參洛於官廳奏風俗舞人役是也○古事記傳大隅薩摩國の華人等の朝廷よ召れて仕奉れるる来く留りて京近き國の人にふれるも子孫まてふほ華人と稱て其職

仕奉れるるり準人式五畿内近江丹波紀伊等國
準人とある是ふり又諸國準人とあるも右の國との
といふふり和名抄山城國經喜郡大住郷あるも
大隅國の準人の留て住しより此名ふり中原康富記
準人司領山城國大住庄と見え又康正元年十月
十七日富國大住庄内準人司領名主市未知實名

智神名式内 甲作續紀靈龜二年九月正七位上山背甲
社二座 甲作作客小友等二十一人新免雜戶除山

背甲作四字改賜客姓東大寺奴婢籍帳山背國
綴喜郡甲作里戸主粟國加豆良部人麻呂戸口 餘戸

相樂郡

相樂佐加良加名勝志今云相樂村在木津村西南半里
許和州郡山道西也古事記垂仁天皇

御宇於是圓野比賣慚言同兄弟之中以姿醜被還之事
聞於隣里是甚慚而到山城國之相樂時取掛樹枝而欲
死故號其地謂懸木今云相樂西官記齊王入依凶事
入京者聞京告早退寮用伊賀道給頓官官府事造山城
相樂頓官江次第齊王歸過大安寺邊并奈良坂至山
城相樂頓官在木津 萬葉集三長 朝霧よりのふり
つ、山代の相樂山の山際をさ過ぬれぬ神名式
相樂神社諸陵式相樂墓贈太政大臣正一位藤原朝
臣百川淳和太上天皇外祖父山城國相樂郡桃城東西
三町南北二町守戸一畑又後相樂墓贈正一位藤原氏
同天皇外祖母在山城國相樂郡贈太政大臣墓内無守
戸今按藤原朝臣百川外祖母尙縫從三位藤原氏宜加
崇班正一位 照悉 堀外 祖父 可正 太政 類聚國史天長八年十
二月相樂山陵令掃清讀經爲崇也或謂相樂墓歟考 〇

續紀天平十二年五月天皇幸右大臣相樂別業宴飲酣暢授大臣男无位奈良麻呂從五位下別名藤志橋諸兄公
觀音寺南三町許舊跡山麓北大塚南大塚云田間泉
水鏡山跡少々殘又舊跡山中島十田字ア田井山吹
ハ此谷ヲノ高ヤ堤ヲ本名御園裏ト云一所ニ重ア也リ
蛙此ハノ高ヤ堤ヲ本名御園裏ト云一所ニ重ア也リ

泉以豆美

續紀寶龜元年十二月賜左大臣正一位藤原朝臣承手山背國相樂郡出水郷山二百町○

萬葉集四(いへ人よ戀ぞきめやもかえつさく泉之里
よ年のへ忍れと又七十讚三香新京長歌の反歌楯並而
伊豆美乃河波乃水をえひつらへまつらん大宮所
又六讚久邇新京歌の一首をとめらる續麻繫云鹿
背之山時のゆ々れと京師とふり忍今按とへといよ
しへの久邇郷のうちふることとるし三香原鹿背山
とふこのほどりふと名勝志和泉の國としたる説も
あれとあやまりらといへり○崇神紀十年九月武埴

安彦與妻吾田媛謀反逆興師忽至各分道而夫從山背
婦從大坂共入欲襲帝京彦國葺向山背擊埴安彦更避
那羅山而進到輪韓河埴安彦挾河屯之各相挑焉故時
人改號其河曰桃河今謂泉河訛也○蜻蛉日記初瀬詣
の段泉川もわたりてとし寺といふ所とゆべ今按
橋也○三代寶鏡貞觀十八年三月山城國泉橋寺申
牒曰故僧正行基五畿境內建立四十九院泉橋寺是其
一也泉河渡口正當寺門河水流急橋梁易破每遭洪水
行路不通當在道俗合力買得大船二艘
小船一艘施入寺家以備人馬之渡役
賀茂 名勝志賀茂郷今有
六村里村北有賀茂渡自木津渡二里東也是ハ伊賀路
ノ驛宿ナリ○又云今木津渡東二里許賀茂郷内里村
有賀茂明神社泉川南端森内坐小社也○行囊抄自奈
良到于此二里半○扶桑略記寛治六年三月山階寺大

衆數百人引卒燒失山城國木津川東里村賀茂庄。○萬葉集(かみ)河の後瀬しつと後もあはん妹も我といまふらひとも。○神名式岡田鴨神社。○風土記岡田賀茂。○三代實錄貞觀元年正月奉授岡田鴨神從五位上。○又云鄉名廢村存。○應仁記山崎天王寺軍條大内ハ上山城之狛ト云所ヲ城郭ニ拵テ究竟ノ者トモフソ置ケル。○今按欽明紀三十一年高麗人越於國よ漂着のよし國人の奏よよ有司よおほせて於山背國相樂郡起館資養これよは郷名よふせよか。○三代實錄欽明天皇時百濟以高麗之冠遣使乞救狹手彦復爲大將軍伐高麗其王踰垣而遁乘勝入宮盡得珍寶貨賂以獻之珠敷天皇世還來獻高麗之囚今山城國狛人是也。○續紀天平神護元年八月從三位和氣王舍人親王孫

上 大狛

名勝志今上狛村歟在平尾村南木津渡北山際

坐謀反誅流伊豆國到山背國相樂郡絞之理狛野。○永享年中寺社文書山城國狛野庄興福寺十二大會并若宮祭禮料所永享二年十一月廿五日。○姓氏錄山城狛造高麗國主夫連王之後也。

蟹幡加無波多

名勝志玉水町南平尾村北有綺田村。○垂仁紀三十四年春三月天皇幸山背左右奏言之此國有佳人曰綺戶邊。○委形美麗山背大國不避之女也。○仍喚綺戶邊納于後宮。○生磐衝別命。○中右記寬治六年二月春日祭使中納言殿於加波多河原暫留御馬前駟皆下自馬候左右是爲御覽射藝義綱朝臣武士也云云。○神名式綺原坐健伊那太比賣神社。○名勝志綺田村氏神社在蟹滿寺南森内土人カナハツノ社ト呼疑是綺原神社歟。○萬葉集十陸妙觀命婦報贈葛城王諸兄卿歌(麻須良乎等於毛做流母能乎多知波吉氏可爾波乃多爲爾世理曹都

美家流今按このふるものふるハ契沖云擇田井也雜式云凡山城國泉川擇井渡瀬者官率東大寺工等毎年九月上旬造假橋來三月下旬壞放祝園波布曾乃崇神紀彦云々此擇井渡と有所ふるへし

國耳射殺埴安彦其軍衆脅退則追破於河北而斬首過半屍骨多溢故號其處曰羽振苑○神名式祝園神社○三代實錄貞觀元年正月奉授從五位下祝園神從五位上○元亨釋書釋永緣姓藤氏吏部郎中永相之子也母遠州刺史江公資之女緣九歲喪父母携赴南京親柞森于時與福慈善受維摩講師詔赴賀於洛都儀衛甚盛母語兒曰汝父已亡我寡不能字故將汝肆業于南寺安得如此僧都汝其勗乎已而師事一乘院賴真應德元年稟維摩講詔時年三十七母歿而久矣遂赴賀於柞森忽念母昔訓感泣不進僕促行緣曰汝等不知昔我九齡伴母

氏息此地先妣誨勵能成我林木如舊昔人非也我豈可堪乎今按此こと新千載といまを凡僧と侍たる時母の常ニ維摩會講師せんを見そやと申たるみ身まゐりて後不とさくらの請給はりてあらへ下たる柞乃杜をどくとてよめるうれしきまつむらしこと戀しなれそゝその森を見るふつけても權僧正 永緣○名

勝志祝園神社ハ柞社内坐神社歟件社土人云春日明神○よし野詣記泉川のあたりうちどき柞のふりみいたりて春よたの柞のふりもそよりも分て霞もうどき色らふ○今按南北祝園村あり

下狗之

毛都古末 名勝志木津川西祝園村西飯岡南有下狗村上狗隔川津今按川あり木

東本稻五十五万四千六百束雜稻十五万四千六百

束

拾芥抄田萬七千五町
七反○主稅式正公同

添上曾不乃加美

添下曾不乃

之毛

今按此二郡始めハ一郡ありしハ後より分れ
るるあり神武紀己未年二月層富縣とあるハハ

まふ分れさる先なり欽明紀に至る添上郡と見え
たれと當時をえやく二郡に分れたるなり神遺方佐

野邊久壽里大和國添上賣太主乃家乃方也とありそ
のふミサノへと訓とや○三代實錄貞觀六年大

和國言平城舊京其東添上郡其西添下郡和銅三年遷
自古京都於平城於是兩郡自爲都邑延曆七年遷都長

岡其後七十一年都城道路變爲田畝○姓氏錄大
和神別添縣主注出自津速魂命男武乳遺命也

平群

倍久里

舊本群を郡と作るハ誤○三代實錄貞觀八年
五月以大和國平群郡雲日寺從五位下猶本神

列於
官社

廣瀨比呂世

萬葉集七廣瀨川袖つくはりありあ
さきとや心ふかめとふらもを

らん○天武紀五年祭大忌神於廣瀨川曲○神名式大
和國廣瀨郡廣瀨坐神○神社啓蒙即龍田社相隣之處

也○東大寺天平二
年大稅帳廣瀨郡

葛上加豆良岐乃加美葛下加豆良

岐乃之毛

今按今かたはちやうらけとよむ○國造
本紀葛城國造○神社啓蒙葛城神社在葛上

郡葛城山○續紀文武天皇四年十一月大倭國葛上郡
○續後紀承和六年五月大和國葛上郡○神武紀乙未

年五月高尾張邑有土蜘蛛皇軍結葛綱而掩襲殺之因
改號其邑曰葛城○諸陵式片丘馬阪陵兆城東西五町

南北五町○山陵志孝靈陵在傍丘馬坂傍丘是舊都西
南而其西並葛城山延地乎南者里所因號傍丘焉馬阪
其西北而葛城之麓也按大和西偏古葛城國也後世分
爲二郡曰葛上葛下葛下即傍丘西地所謂片岡莊也片
岡葦田池及片岡氏之墟並在下牧片岡即傍丘則其墟
與池所在牧地果是傍丘也馬阪今之馬瀬阪在邊磨寺
西獨其地西山是麓而與傍丘隔離數町因知傍丘
非西山而其名泛蒙此間或指西山曰傍丘謬也
忍海

於之乃美
古事記傳此郡也葛城上下郡於中間也あり
古也葛城の内ぬり今も忍海村といふあり

○神功紀五年桑原佐麻高宮忍海凡四村
○續紀大寶元年大倭國忍海郡人三田首
宇智 冠辭考
文武紀

○内野と書り和名抄云此郡は阿施江あきと即ち阿
施の大野ともいへる所をるといふしへは郡の名な

まゝ内野といひしあるへし○續紀文武天皇二年
二月車駕幸宇智郡大寶二年大倭國吉野宇智二郡百

姓云々同三年宇智和銅
七年有智○諸陵式宇治
吉野與之乃
續紀和銅三年四
月大倭國芳野郡

始置大少領各一人主政二人主帳一人○名跡幽考西
南ハ紀伊國をさるひじし東ハ伊勢國よつゝ凡大

和一國ハ三つ二此郡ぬり○宗良親王千首寄郡祝(君
らむよしの、郡名みゆりてるのらひあると今そ

しらるゝ○今按應仁記同別記吉野
十八郷とあり赤松記も云らあり
宇施 宇太
神武紀
戊午年

二月菟田○續紀慶雲二年宇太郡○靈異記宇太郡○
三代實錄貞觀元年九月宇陀水分神○神名式宇太水

分神社○太神宮諸雜事記垂仁天皇廿五年天照坐皇
太神天降坐於大和國宇陀郡于時國造進神戶等宇陀

是神戶是已皇太神官始天降坐本所也○神鳳抄二官御領白布十八段宛宇陀神戶卅七丁三段三百步十一石

二斗一升五合内官御祭御神酒代白布廿一段如先分定○管家文草寄雨多縣令江維緒一絶

城上之

岐乃加美 古事記御真木入日子印惠命坐師木水垣宮治天下也傳之此宮ハ在三輪村東南志紀ハ

縣神社西と大和志よとゆいらとまを此あたてみそ在けん○崇神紀三年九月遷都於磯城是謂瑞籬宮

○神武紀戊午年五月倭國磯城邑有磯城八十梟師○武烈紀元年太子命有司護壇場於泊瀨列城陟天皇位

遂定都全三年十一月作城像於水派邑仍曰城上也○神名式城上郡志貫御縣坐神社○大三輪神三社鎮座

次弟大倭國磯城縣○日本釋名敷島の都のあとを長谷の谷口ひるき所慈恩寺村の下五六町ありと云

原少し残りり○靈異記大和國葛木上郡○今按今式上式下と書けり

城下之岐乃之毛

續紀天平勝寶二年 高市多介知 神名式高市御縣坐鴨事代主神社又高市御

縣神社○今按今俗高いちとよへり欽明紀七年倭國今來郡といふことと見えあり正濫抄勝地吐懷編等今來ハ

高市郡の地名 十市止保知 神名式十市御縣神社○東大寺天平二年大稅帳十市

御縣神戶稻壹阡伍拾貳束租貳拾束○今按節用集トイナト訓を今をトイナと云へり

山邊夜萬

乃倍 崇神紀六十五年七月山邊○神名式山邊御縣坐神社○東大寺天平二年大稅帳山邊御縣坐神戶

稻貳佰陸拾貳束半租壹拾束○續後紀承和三年三月大和國山邊郡荒廢田十町賜宗康親王○靈異記山邊

郡磯城
島村

添上郡

山村也末無良

欽明紀元年二月百濟人已知部投化置倭國添上郡山村已知部之先也○古本

今昔物語大和國添上郡山村の里ふ住ける人あり云々○靈異記大和國添上郡山村中里○萬葉集十二幸行

山村之時歌二首(安之比奇能山行之可婆山人乃和禮爾依志米之夜麻都刀曹許禮舍人親王應詔奉和歌(安

之比奇能山爾由伎家牟夜麻妣猶中今按殘編風土記等能情母之良受山人夜多禮平城郷あり猶中

ハ檜郷ふるをしまたハ諸陵式奈保山山邊節麻集楊あれハ猶山の誤かじ上田百樹ハハ

生也木布

今按以下大柳生村小柳生村とて有三代實錄貞觀元年九月養父山口神今大柳生村と

在て天皇と稱へる神あり○行囊抄南笠置村ヨリ左街ニ入テ笠置山ヲ弓手ニ見テ南ノ谷合ヲ行ハ柳生

へ出ル路ナリ

八島也之末

諸陵式八島陵崇道天皇在大和國添上郡兆城東西五

町南北四町守戸二烟帝王編年紀古市の里の南あり書よみ、を山階の地名跡幽考よ藤原の南あり釋山階寺近き所あるをいよや○今按三代實錄仁和

元年九月大和國添上郡八島郷いまそ八島郷といへり此郷中ニ藤原村といふあれと藤原の宮所ハそこ

なりやあらひや
さちかふらひ

大岡春日加須加

神名式春日神社又春日祭神四坐頭注

神護景雲二年垂跡於大倭國添上郡三笠山○古事記傳開化紀元年冬十月遷都于春日春日此云箇酒鶴繼

體卷勾大兄皇子御歌は播磨比能可須我能俱爾なとありさて此地名の起の事姓氏錄大春日朝臣の條に見えをきとうたかひし其詞は彼氏の先祖大雀天皇の御代は糟を以て垣よせしよ因て糟垣臣と號たまへるを後に春日臣とあらたまむとある此説よるとさき本糟垣ありしか後に省りて加須賀となれるなりさて又其糟垣を賜てし姓をきは地名になれりるを後のことと聞ゆ然れども此説の疑かひしきよしわ先書紀の綏靖卷に既に春日縣主といふこと見えまた此段にも如此春日之云々とあるを正しく地名ふるよ彼糟垣のことと遙に後大雀天皇の御世とあれをありされは地名を本よて彼姓を其地にきりてにこそありけめ然れども若彼説誤たひけて云は糟垣のこととせむと上つ代のことなりけんを誤り

て大雀の御世とも傳へたるよやそをもしくかの糟垣よ因て其地名も加須賀と云來つれを後姓に賜ひしよ大雀は御世ありしよやあらむさて糟を以て垣とせと云るをいふなることとそといふよ古よ川は堤けことく廣くつきある垣もあておほしけとば云云○東大寺古文書春日村○名跡幽考今世添上郡春日の境地にかきりて奈良といへり古は添上添下の郡ともみ奈良よこそ侍らめ先は平城宮又古歌よふる菅原元亨釋書奈良之古大宅オホヤケ并河氏與京殖槻これらの所と添下郡あり春日も大宅も廢る白毫寺村も存し俗は宅春日といふ○姓氏錄大和神別大家臣條大中臣朝臣同祖津速魂命之後也○東大寺奴婢籍帳大和國添上郡大宅郷戸主大宅朝臣可是麻呂

添下郡

村國

名跡幽考村國墓所志と云は村國のやほとの國添下郡あり贈正一位安倍命婦と諸陵式とあり

佐紀

續紀神護景雲三年八月葬高野天皇於大和國添下郡佐貴郷高野山陵○諸陵式狹城盾列池

後陵志賀高穴穗宮御宇成務天皇在大和國添下郡兆域東西一町南北三町守戸五烟○神名式佐貴神社○

大和志佐紀郷已廢存超昇寺常福寺二村○萬葉集吟野○靈異記大養宿禰真老者居住諾樂京活目陵北之佐

岐村○古事記沙紀之多他那美○前皇廟陵記狹城郷名續紀作佐貴在奈良西超昇寺戊亥盾列池今沒樂師

寺其跡云○諸陵周垣成就記狹城盾列の池と申所未詳○山陵志狹城崎也言山阜陬嶋今超昇寺西北爲山

陵村實是山阜陬嶋而有四池焉池皆南北縱列里老相傳故七池其三已作田所謂盾列池即縱列池也盾縱音

借也○類字名所集佐幾野未勘○風雅集春山のさきの、ま、さかきと々々つめる若菜よあえ雪をぬる

藤原基俊○勝地吐懷編と云は萬葉第八に春山の開け乎鳥里了春菜摘妹之白紐見九四與四門このうたを取

用たる也大和國添下郡と佐幾といふ所あり日本紀と狹城とありそとよや○名跡幽考佐紀山といふ

め村の西とあり此山からよとゆるそれを佐紀山といふよし八雲御抄に見ゆり萬葉十春日ふる三

笠の山み月も出かも佐紀山にさげる櫻の花のとゆへく佐紀池ハ俗と水上の池といふ畷田八幡縁起曰

神功皇后池上よはうふり奉ると云云もしくハ池上の池といふへきを水上に池とあやまりていふよや

狹城池ハ垂仁紀三十五年十月作倭狹城池と見えたり又楯波池ともいふ續紀神祇四年六月從楯波池驅

風忽來吹折南苑樹二矢田續紀養老七年戊午始築矢田池○姓氏錄大和神別矢

株即化成雉とあり田部饒速日命七世孫大新川命之後也○神名式矢田坐久志玉比古神社二坐○元亨釋書金剛山寺俗と矢

田寺といふ○名跡幽考矢田寺松尾寺の北矢鳥貝止

田野○和訓栞矢田野ハ添下郡矢田の邊なり

利加比今按此郷名ぬるく鳥見とありを後鳥貝と改えられしらまると半形の似るよ

とりのはやく誤りたるよもあるへしをハ神武紀戊午十二月皇師擊長髓彦連戰不能取勝時忽然天陰而

兩氷乃有金色靈鷲飛來止于皇弓弭其瑪光暉煜狀如流電由是長髓彦軍卒皆迷眩不復力戰長髓是邑之本

號焉因亦爲人名及皇軍之得瑪瑞也時人仍號瑪邑今云鳥見是訛也とあるよておもふをしとて矢田の郷

名も皇弓弭云云よしありと聞えたりまた垂仁紀二十五年作倭狹城池及迹見池萬葉八衛門大尉大

伴宿禰稻公跡見庄作歌いめたて、跡見の岳邊のふてしこの花ふさるをりわれはもていさむふと、ひ

とのふめ續紀和銅七年十一月登美箭田二郷云と神名式と添下郡登彌神社などみなトミとよをり古事

記傳と鳥甘部の件と此鳥貝城も引て大和國添下郡鳥貝郷あり此外よ鳥養てふ地是彼よありといえ

とたるとをたかへり但外の國となるハ鳥養の義なり

平群郡

那珂 鉤波阿久奈美

今按鉤波の誤天武紀五年鉤波郡とあること、ふるへし〇東大寺

古文書鉤波村〇上宮聖德太子傳補闕壬辰年十一月鉤波村有虹終日不移人皆異之

平群倍久

利 神名式平群石床神社又平群神社又平群坐紀氏神社〇靈異記平群驛西方有小池

夜麻 春日 驗記

大和國平群郡夜摩郷一の靈地あり竹林殿と號ひ春日大明神の御影向の所あり〇名蹟幽考引玉林抄

云法琳寺資財雜物錄云法琳寺東限法超寺界南限鹿田池堤北限氷室池堤西限板垣峰在平群郡夜麻郷右

寺斯奉爲小治田宮御宇天皇御代歲次壬午年上官太子起居不安于時太子願平復即男山背太兄王并由義

王等始立此寺也所以高橋朝臣預寺事者膳三穗娘爲太子妃矣太子薨後以妣爲檀越今斯高橋朝臣等三穗

娘之苗裔也維于時延長六年歲次戊子三百一十歲云々

坂門

松葉名所集坂門〇萬葉集三鳥綱はる

坂手乎過石ハしハ神ハ山云々略解ハ景行紀坂手池波作ト有今城下郡ハ坂手村有ト見ゆ然レハ坂手

ハ此郡からハもしくハ手ハ戸の誤ハあらぬ

額田奴加多

姓氏錄大和諸蕃額田村主注

云吳國人大國古之後也

廣瀨郡

城戸

冠辭考木上官萬葉ハ高市皇尊木、筑宮殞時と云し諸陵式ハ同し皇子の墓大和國廣瀨郡ハありとみゆとて和名抄同國同郡ハ城戸郷あり武烈紀ハ作城像於水派邑仍曰城ハた集中ハ城於道と書ハ

戸に其土山を越え通ふ道あり萬葉よ木坂官ふと
 あれとそこにいひあはれ萬葉卷々紀伊國より往來し
 人の彼山越えたる歌多きハ此道あり其土峠と大
 和宇治郡より木國伊
 都郡よ越る大道あり
 上倉下倉山守
 應神紀五年八
 月令諸國定海
 人及山
 散吉
 神名式廣瀬郡讚岐神社○三代實錄元慶
 七年十二月散吉大建命神散吉伊能城神
 守部
 並從五位下○地名字音轉用例と忍き俊散吉郷ハ神
 名帳ニ讚岐ノ神社トアル處ナルヘク思ハルハ故ニ
 サヌキ
 トセリ
 下句
 崇峻紀元年廣瀬勾原○古事記勾之金
 箸云々傳云勾大和國廣瀬郡ふるハ
 か和名抄下句と云郷あり是
 志母都麻賀理とむし

葛上郡

日置
 姓氏錄大和諸蕃日置造又日置倉人高麗國人
 伊利須使主之後也○出雲風土記神門郡考へ

高宮多加美也
 神功紀五年桑原佐
 牟婁
 古事記大倭
 帶日子國押

人命坐葛城室之秋津島宮治天下也傳云孝安紀二年
 冬十月遷都於室地是謂秋津島今室羽村とせり

桑原
 神功紀五
 上鳥
 古事記傳鳥ハ鳥ノ誤ふるをし
 下同○續紀天平寶字八年十一

月祠高鴨神於大和國葛上郡高鴨神者法臣圓與其弟
 中衛將監從五位下賀茂朝臣田守等言昔大泊瀬天皇

獵于葛城山時有老夫每與天皇爭後天皇怒之流其人於土佐國先社所主之神化成老夫爰被放逐於是天皇乃遣田守迎之令祠本處○神名式葛上郡高鴨阿治須岐託彥根命神社四座

下鳥大坂オホサカ

履中

紀元年太子到河內國埴生坂而醒之願望難波見火光而大驚急馳自大坂向倭至于飛鳥山○天武紀元年將軍吹負既定倭地便越大坂往難波○三代實錄貞觀元年九月大坂山口神○姓氏錄大和神別天孫大坂直注天道根命之後也○古事記傳神名式葛下郡大坂山口神社あり葛上葛下と郡の異ふるは埴近をれはそ別は非は孝德天皇の大坂磯長陵も河内の石川郡よと此山の西面ありさて此道は古は往來と大道ありし故今はさばかりの大道は非は穴蒸越と云て葛下郡穴蒸村と云よ河内國古市郡飛鳥村に到り

古市ふと坂經て難波の方ふ通ふ道ありさて其穴蒸村に並ひて逢坂村と云あるは大坂なるをき坂後世よはオホとアツと一に唱はら誤て逢字坂書ふるゑし

檜原奈良岐良

太平記東國勢初度

ノ合戦ニ負ケレハ楠カ武略侮リニクントヤ思ヒケン吐田檜原迄ハ打寄ントハ不擬云

神戸カヌヘ

和訓

時祭
之餘戸

葛下郡

名跡幽考籠田の南とある神南を平群郡あり和名抄平群郡ふ神戸ふし但神南を平群郡とあり

獵于葛城山時有老夫每與天皇爭殺天皇怒之流其人於土佐國先社所主之神化成老夫爰被放逐於是天皇乃遣田守迎之令祠本處○神名式葛上郡高鴨阿治須岐託彥根命神社四座

下鳥大坂下ホサカ履中

紀元年太子到河內國埴生坂而醒之願望難波見火光而大驚急馳自大坂向倭至于飛鳥山○天武紀元年將軍吹負既定倭地便越大坂往難波○三代實錄貞觀元年九月大坂山口神○姓氏錄大和神別天孫大坂直注天道根命之後也○古事記傳神名式葛下郡大坂山口神社あり葛上葛下と郡の異ふるは塚近を以て別よハ非ハ孝德天皇の大坂磯長陵も河内の石川郡よこ此山の西面ありとて此道ハ古ハ往來ト大道ハトシ汲今ハさばかりの大道トハ非ハ穴蒸越と云て葛下郡穴蒸村と云よ河内國古市郡飛鳥村と到り

古市ふと坂經て難波の方み通ふ道ありとて其穴蒸村よ並ひて逢坂村と云あるハ大坂なるもき坂後世よハオホトアツと一に唱はら誤て逢字坂書ふる多し

檜原奈良良

太平記東國勢初度

ノ合戦ニ負ケレハ楠カ武略侮リニクントヤ思ヒケン吐田檜原迄ハ打寄ントハ不擬云

神戸カヌ和訓

萊神戸ハ日本紀ふ見え戸令みくハし神社ふ租税を奉る農民をいへり○垂仁紀二十七年定神地神戸以

時祭 餘戸

葛下郡

名跡幽考龍田の南とある神南を平群郡あり和名抄平群郡ふ神戸ふし但神南を平群郡とあり

て葛下郡の北の近隣ありハ舊神ヤマノ節用集葛山直カサカ高領カサカ

額同 賀美カミ今按續紀寶龜五年十月公麻呂居大和國葛下郡國中村因地命氏カミあるとむかへた

地名と國上あると國と省さ上と賀美としたるか 蓼田ヲテ品治保無智カサカ古事記玉垣宮

天皇御寢之時覺ト御夢曰云々布斗摩邇々占相而求何神之心爾崇出雲大神之御心故其御子令拜其大神

宮云々出行之時到坐地定品運部也傳云品運部本牟智別王乃御名を以て負せたる部あり大和葛下郡

品治郡因幡邑美郡品治郡安藝山縣郡品治郡備後品治郡品治郡ありこれより倭より出雲往来の道

ある國々あり此時定めれる品運部の由縁の名よやあらん 當麻多以末カサカ三代實錄貞觀元年

九月當麻山口神○元亨釋書城下郡當麻郷○神名頭注云當麻山口神入皇五十五代文德天皇仁壽三年始

之内藏式夏四月冬十一月並上申日祭之

忍海郡

津積ツシメ園人ソノヒト姓氏錄大和諸蕃園人首百濟國人知豆神之後也○古事記穴穗宮卷五處之屯宅注所謂

五村屯宅者今葛城之五村苑人也傳云苑人者御苑の役も民も職員令も園池司正一人掌諸苑池種

殖蔬菜樹菜等佑一人令史一人使部六人直丁一人園戸とある園戸即ち苑人にて其戸皆園池司に屬する

りかくて葛城の内にあつし苑人其戸五村あることハもと屯家ありし後其民苑人にて在しありと

の園人郷是其五村の地ある間
忍海郡の葛城のうちにあり
中村ナカムラ 今按續紀寶龜五年十月葛下郡中

村とれるへし上よいへる如く忍海郡の葛城上下
栗 郡の間よ置たれは始は葛城の内ありしなるへし

栖ナ 勝地吐懷編引類字名所集云栗栖小野山城○續千
載集旅人としはとれくるその小野の萩の花ちら

ん時ふし行へ手向ん大納言 契冲云此歌は萬葉第六よ
て出たて彼集云大納言大伴卿在寧樂家思故郷歌二

首たゝまはし行てみてしら神ふひの淵にあさひて
淵よらふるらん次之今のうたふて伴氏の先祖道臣

命高市郡み宅地を賜りて子孫も安堵しをれは思故
郷といひて神南備淵をよまじたり然れは北栗栖の

小野といふも大和ありと云るをし和名抄云忍海郡
栗栖忍海を高市に隣近の郡ふれはとせふるへし

宇智郡

阿施アセ 音可濁讀 神名式阿施比賣神社原村よあり ○
三代實錄貞觀八年十月贈太政大臣

藤原朝臣墓在大和國宇治郡阿施郷阿施村大栗山 ○
諸陵式阿施墓贈大政大臣藤原朝臣良繼日本根子推

國彦尊天皇祖父在大和國宇知郡○行囊抄
富麻の本堂より染殿の井に行右にあり 賀美那珂

資母シモ

吉野郡

賀美カミ 行囊抄上芳野村 名所にあらひ
那珂ナカ 資母シモ 行囊抄下芳野村右の
方宇加志の東方に日

張山とて堂あり古跡の地あり其由緒可尋

吉野與之乃

今按古事記に美延斯怒と見ゆれハ

吉野を古多エシヌと訓り應神紀十九年十月幸吉野宮とありてこハ山水の世に絶たる地ありハ太古よ別宮ありて萬葉の歌に多くよめり○神名式吉野水分神社又吉野山口神社○續紀文武天皇二年夏四月奉馬于芳野水分峯神所雨也今按古多水分山に坐せしか年々洪水に山崩れて今丹治村といふに遷せり○管笠日記丹治といふ所よりよしの山口よかゝるやハ深く入りもてゆきて杉むらの中よ四手掛の明神と申はかおきれ吉野山口の神社とよきあらぬや

宇陀郡

漆部奴利倍

今按大和志漆部郷今存和訓栞云日本紀漆部を忍りへとよめりうるし忍るとい

ふこととあり○靈異記大和國漆部里有

伊福

姓氏錄大和神

風流女是即彼部内漆部造磨之妾也

別天孫伊福部宿禰又伊福部連

浪坂

奈無佐加

神武紀戊

天火明命子天香山命之後也

午年九月天皇陟菟田高倉山之顛瞻望域中時國見嶽上則有八十梟師又於女坂置女軍男坂置男軍墨坂置赫炭具女坂男坂墨坂之號由此而起也今按三ツの坂の並ひたるによりて並坂とよひらんを後に浪坂と書たり

多氣

今按紀の國へ出る道に多氣といふ村あり神末村より行程三里

笠間加佐

未

城上郡

辟田

姓氏錄諸蕃辟田首都奴加阿羅志等之後也○春日驗記正安三年十一月條平田庄○久守云神名

式乘田

下野

シモノト訓むへし板本
モツケと訓むは誤る

神戶

大神宮參詣紀大和

國宇陀郡宇陀の神戸とあり郡の異ふは塚近々ればそ別ふは非ざるを

大市於保以智

大倭神社注進狀狹井神社在大和國城上郡書記倭大神著穗積臣云々命大倭直祖長尾市宿禰令祭矣所謂

大市長岡今狹井社地是也

大神於保無知

今按知ハ和の誤即オホミワの轉音よて大三輪

の義也いま三輪町といふ所奈良よて行程五里○神名式大神大物主神社○神名頭注大神○一宮記三輪

大明神大和城上郡○東大寺天平二年大稅帳大神々戸穀貳佰壹拾漆斛漆斗肆升貳合○舊事記大物主神

密通玉依姬時人無知者姬懷妊父母怪疑問云誰人來到乎姬答云頃者人自屋上潛來于吾所共同寢也父母

欲知之探針與糸授姬曰令彼神人以此針可着其衣裾此夜神人來臥姬如父母教朝見彼糸自鑰穴出認跡尋

過節度山吉野山留三諸山其系縲縮有三輪故名三輪

上市

行囊抄吉野河の北の岸也上市驛也舟渡と

して上市に到は勢州路并多武峯泊瀬路あり今泊瀬町といふ所あり

長谷波都勢

姓氏錄大

和神別長谷部造饒速日命十二世孫千速見命之後也○神名式長谷山口坐神社○三代實錄貞觀元年九月

長谷山口神○管笠日記よきの天神にまうつ社也山のはらにやゝあひらかふる所よゝせ給へり長谷

山口坐神社と申さるもこれかともよやおぼせらん
 また云出雲村黒崎村かといふ所汲をく此あたりハ
 朝倉列木宮ふとの跡と聞しかといとゆか今按長谷朝倉宮ハ雄略天皇都長谷列木宮ハ武烈天皇の都あり ○續後紀承和十四年十二月勅大和國城上郡長谷山寺高市郡壺坂山寺元來靈驗云々付所由編爲定額永以宦長令檢校也○長谷寺縁起城上郡長谷郷○吉野詣記さのゝとたゞ過る程云々かくつは市よゞ泊瀬にまるゞ忍○古事記傳長谷の川大和國真中を流れたゞ初の瀬の意か川上と猶遠々れとも國中にゞ此地そ上瀬あるさて長谷と書くことと地のをあつ因てなるへし此地名中古よゞ波世とも云ゞ今の世にはもはら波世とのといへゞ○東大寺天平二年大稅帳長谷神戸穀三拾參束伍斗參升○日本釋名長谷仙覺云ふかくゞはしとい

ふ詞也とかるとはつとゞへゞは詞の助也泊瀬と書るも其訓富る故書之假字あゞ篤信おもふよはせのはあはるかある意はるかあるは長き也はせの谷ははるかに長くしてゞはし隱口のはつとゞ云へるも長谷はおくあかくて口よゞはともりて見えされはなり

恩坂 於佐加

今按恩も忍の誤なるへ

し○神名式忍坂坐生根神社恩坂山口神社○諸陵式押坂墓田村皇女在大和國城上郡舒明天皇陵内無守戸又押坂内墓大伴皇女在大和國城上郡押坂陵城内無守戸○三代實錄貞觀元年九月忍坂山口神○神武紀戊午年先擊八十梟師於國見丘云々勅道臣命汝宜帥大來目可作大室於忍坂邑盛設宴饗誘虜而取之道臣命於是奉密旨掘窖於忍坂而選我猛卒與虜雜居陰期之日酒酣之後吾則起歌汝等聞吾歌聲則一時刺虜

時道臣命乃起而歌之曰於佐簡廼於明務露夜珥比苦
璫渡而云々○管笠日記初瀨よ多武の峯へゆく細
道にかゝる此橋をばつせ川のふかれにわをせはし
也けり云々東の方にいと高き山とといは音羽山と
そいふ音羽の里といふもその麓にありとそ忍坂村は道
の左の山あひよてやかてこのむらのかたいらととゆりゆく

城下郡

賀美大和於保夜未止 崇神紀六年秋九月倭大國魂神
託淳名城入姬命祭倭國市磯邑

後改名曰大倭邑○今按大倭神社註進狀大倭神社在
大和國山邊郡大倭邑出雲杵築大社之別宮也和訓栞
云城下郡に入るはいか、神名式に山邊郡大和坐大
國魂神社神社啓蒙にも大和社は在大和國山邊郡大

和里即三輪泊瀬之間也所祭之神一座大國魂神とあ
り然るに續紀天平寶字二年二月勅曰得大和國守從
四位下大伴宿禰稻公等奏傳部下城下郡大和神山生
奇藤其根虫彫成文云々とある見れども大和郷ハそ
れかみ城下郡に属したる後 推古
紀十
世に山邊郡に入りたるは猶考をし 三宅美也介

五年毎國置屯倉これより起れる名也和訓栞云三
宅も屯倉におかれし氏姓所名といふ官府の類あり 鏡

作加加都久利 荒木田久守云都上美字脱歟○神名式
鏡作坐天照御魂神社鏡作伊多神社名

頭注石疑姥命又多又鏡作麻氣神社 麻氣ハ天 ○東大寺大倭
國天平二年大稅帳鏡作神戸稻佰貳拾玖束租貳拾壹
束參把○寶鏡開始天照大神入于天磐窟石疑姥爲治
工探天香山之金以作日矛也彼石工神者即山跡國鏡

作坐 神也 黒田久留多

孝靈紀元年皇太子遷都於黒田是謂 廬戸宮○今按今黒田村あり古事記

傳に云風土記を引て云意宇郡黒田驛土體色黒故 云黒田とある此例によらひことゝもさる故の名にや

室原他本也

今按注の也字よるとき他本と原を屋 又作れるら有し歟神名式村屋坐彌富都

比賣神社又村屋神社東大寺大倭國天平二年大稅帳 村屋神戸大安寺資財帳大倭國五處注一在式下村屋

かどあると れるるへし

高市郡

巨勢

今按神名式巨勢山坐石掠孫神社まを葛上郡巨 勢山口神社古瀬村にあて巨勢野も古瀬村にあ

て巨勢山は里の上方にあふをいふとそ勝地吐懷編 到高市葛上兩郡に亘る歟○萬葉集一(とせ山のつら

くつはさつまくにみつゝ思ふぬこそ春野又三十 〇たゝにゆかひとゆとせおからいほさふみとめぞわ

か來し戀ていへさみ又七(わかさをとちこそ 山と人はいへと君もさまさひ山乃名からし

大和志波多郷今廢畑村存○靈異記高市郡波多里○ 神名式波多神社又波多野井神社○古本今昔物語

將軍始建 清水寺語 高市郡八多 遊部 倭訓栞是令にいふあそひ

ノ郷二小島小寺アリ 川あてそふ川といふ古事記に多八日八夜遊ふと

ゆ紀に八日八夜啼哭悲歎ととゆさきは遊部は此時 乃悲歌をささふの也凡遊は樂をいふこと仲哀紀に

には花かたしるち秋をてはもみちかたさそやゆふ川の神もおほみげにつかへまつると上つそに鶴川をたつ下つそよ小網さしわたり山川もよつつかふる神のみ代かも穂井田忠友云今俗説言尊坊と呼所とせあるへし○松葉名所集遊副川○今按三代實錄元慶四年十月高市郡夜部村とあるとよはあらし歟をしとあらんよ

檜前比乃久末

續紀寶龜三年四月以檜

前忌寸任大和國高市郡郡司元由者先祖阿智使主輕島豐明宮取宇天皇御世率十七縣人夫歸化詔賜高市郡檜前村而居焉凡高市郡内者檜前忌寸及十七縣人夫滿地而居他姓者十而一二焉

久米

神名式久

米御縣神社三座○神武紀二年春二月天皇定功行賞使大來目居于畝傍山以西川邊之地今號來目邑此其

也 綵 雲梯 宇奈天 節用集雲梯○萬葉集七(真鳥住卵名手之神社)の管椶乎衣よかきつけき

せん見もらも全二十(花もは忍をれもふといは、まと

溝乃 賀美 後紀天長六年三月大和國高市郡賀美郷甘

也○神名頭注鴨事代主○舊事記大己貫神娶于坐邊津宮高降姬神生一男都味齒八重事代主神坐倭國高市郡高市社之甘南備

十市郡

飯富 和訓栞もと飢富の文字よてたかじよむいさど此書み飯と誤て書しよ訓誤もて唱來せり○

神名式多坐彌志理都比古○神名頭注成號大社

川邊加八乃倍

神武紀二年使大來目居于畝

傍山以西川邊とあ

池上

今按下萩原の町よマ松山町カもこゝふるへしイ可至る間ふ池上村といふあ

○理屬發香載十市郡印郡印者天平寶字五年十一月廿七日申部内池上郷地主某家等家地活券之事郡

司解神

名跡考神南備の飛鳥とつらぬ呼て萬葉歌文也カ神南備にあぞら河をよみ合せるハ飛

鳥ハ高市郡さり倭名抄又高市郡了神戸さし十市郡に神戸ありて十市郡ハ高市郡の東みつゝささ並ひもれハ郡ハたらひたせと近隣ふれ故ふ神南備の飛鳥とハつゝくれふるをし高市郡ハ甘南備飛鳥社あ

山邊郡

都介

今按主水司式氷室山邊郡都介一處今山田村ケあマ隣村福住と氷室祠ありとハへりカ仁徳

紀六十二年是歲額田大中彦皇子獵于岡鷄瞻野中有物其形如廬仍遣使者使視還來之曰窟也因問之云々啓之曰氷室也皇子則將來其氷獻于御所自是以後每當季冬必藏氷至春分始散氷の故事と起りカ○神名式都祁水分神社今輛田村マる都祁山口神社○三代寶錄貞觀元年從五位下都祁水分神都祁山口神マる山邊郡都介野○續紀靈龜元年六月開大倭國都祁山之道○江次弟伊勢齋宮歸京之時大和國都介頓官ふて供御と奉る○東大寺天平二年大稅帳都祁神戶稻壹佰參拾陸束租壹拾束壹把合壹佰肆拾陸束壹把

星川保之加波

姓氏錄大和皇別星川朝臣石川朝臣同祖武内宿禰之後也敏達天皇御世依居

地賜姓星川朝臣同之

服部波止利長屋奈加也

續後紀承和十三年三月山邊郡長

屋郷○名跡幽考和銅三年二月藤原官より寧樂宮にうつり給ふり時長屋原にして古郷をらへり見給ひて飛鳥は明日香乃里はおきていはは君らあたりひ見えひかもあらん天上皇長屋原今長原村にありとそ

石成以之奈利

續紀神龜三年七月遣使奉幣帛於石成葛木住吉賀茂等神社○續後紀承和九

年大和石上伊曾乃加美

古事記磯上○神名式石上坐布留御魂神社石上市神社○

仁德紀八十七年正月太子便居於石上振神宮○武烈紀十一年八月影姬歌伊須能箇滿賦屢遠過古茂萬玖

羅高波志須幾云々○三代實錄貞觀九年三月進大和國從一位勳六等石上神階加正一位○姓氏錄布留宿

禰柿本朝臣同祖天足彥國押人命七世孫米餅搗大使主命之後也男木事命男市川臣鷓鴣天皇御世後賀

布都努斯神社於石上御布瑠村高庭之地以市川臣爲神主○吉野詣記磯上あるの川つらをゆきてあるの

社をあらみて咲花にけふとそくれ七十にちかきもあはれあるの中道○名跡幽考磯上寺磯上村にあ

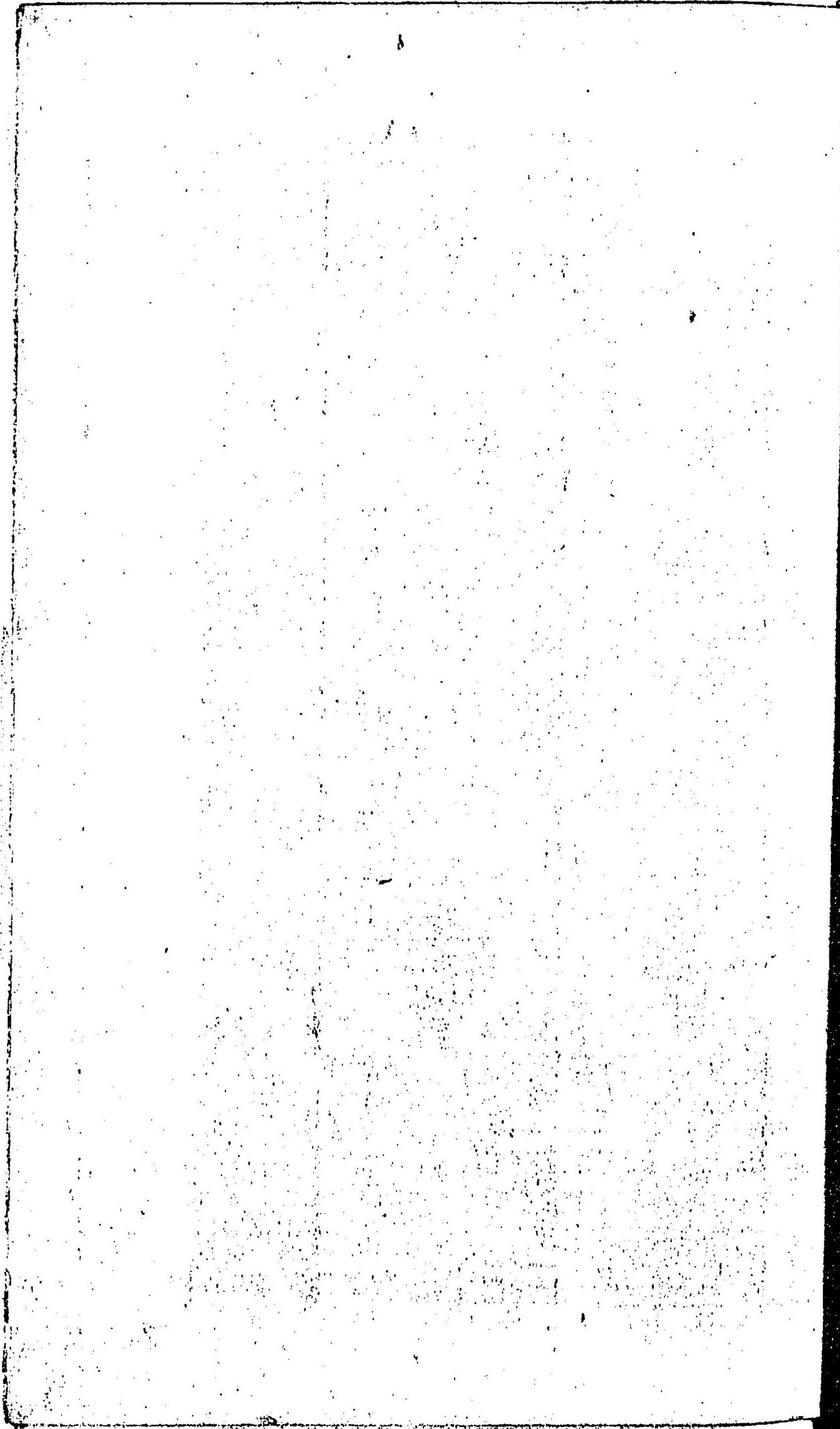
り石上在原山本光明寺と號して在原業平朝臣は住まりし地に立られける寺あり拾芥抄に磯上寺は寶蓮

寺と號ひかよし見にたれいつの代に本光明寺とは改たるにや○古今集あらの石上寺にて石上古き

都の時鳥とあはかりとそまかしふりとき法師顯注密勘に此歌は端書にあられ石上寺にと書る心え

以奈良都ハ添上郡石上ハ山邊郡也。石上寺をさ
 といはんことといはれさし只奈良を過てまられば石
 上寺遠からぬにたもひわたりて奈良の石上と書て
 侍るさ。遠鏡に詞書ある石上寺ハ山邊郡石上にあ
 るを奈良といへることハ今ハ京にては石上のあた
 へ迄をもひろく奈良といひならへるなり。丹波國な
 る愛宕山をも他國にては京の愛宕といふ類なり。○
 今按いま標本のつゝきに磯上村といふあり。是と
 左の方布留の社の邊也。磯上も此邊の惣名也。磯上寺
 まち柿本寺ともいへり。いま冬いさゝらぬる小宇遺
 れり。とそ石上池ハ齊明紀六年に見え石上溝履中紀
 四年六月に見ゆ名跡幽考にいその上の五六町東寺
 井川是也
 といへり

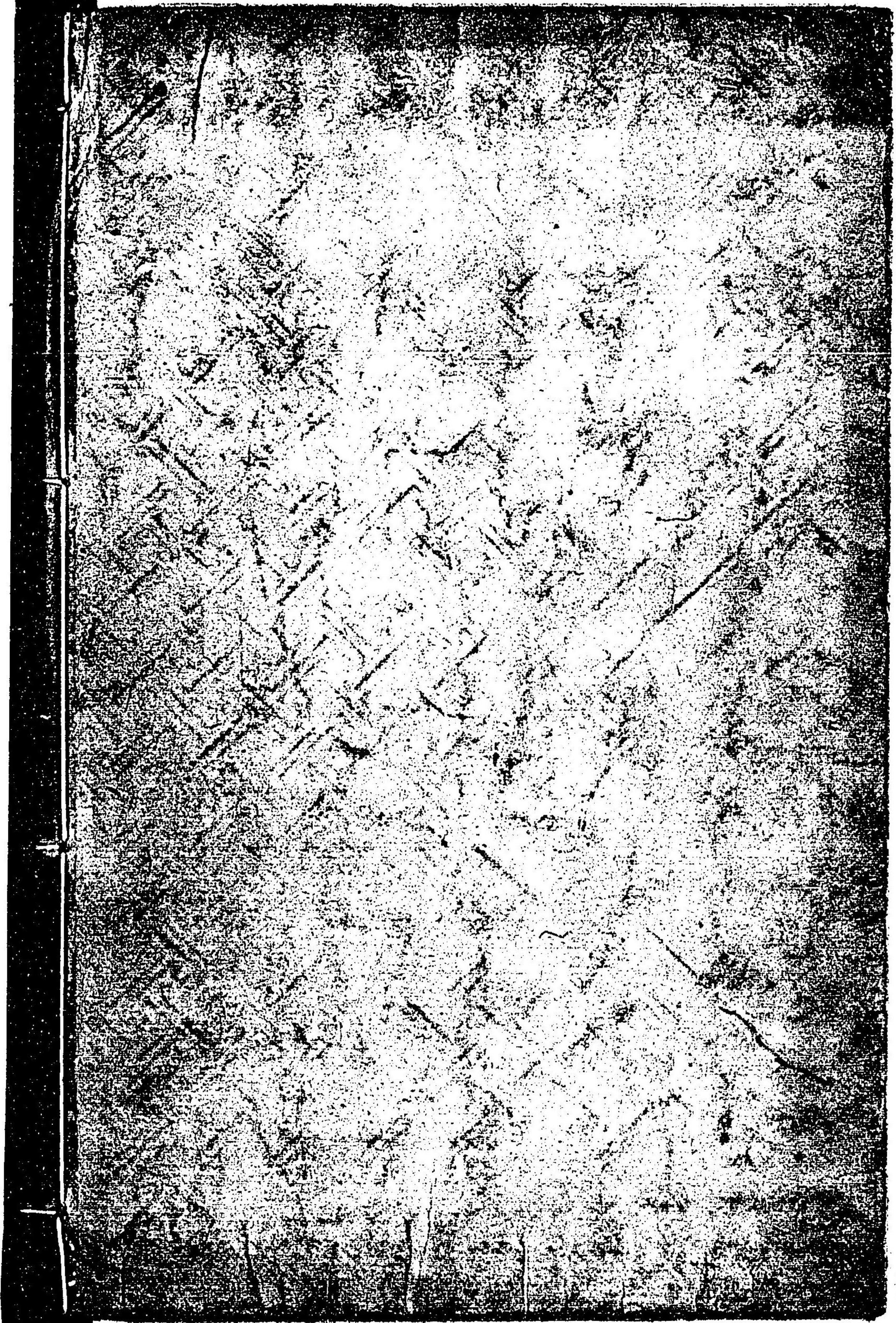
諸國郡縣考卷二終



--	--	--	--	--	--	--	--

欽定四庫全書

〇



Faint, illegible text or markings at the bottom of the page.